

住民意識調査の概要

1 調査目的

平成 30 年 7 月豪雨災害では、岡山県内で死者 61 名、行方不明者 3 名、住家被害 18,005 棟（10 月 26 日現在）という甚大な被害を及ぼした。この災害の教訓を県内だけでなく広く全国に伝え、次の災害に備えるため、アンケート調査を実施する。

2 調査方法

調査名：平成 30 年 7 月豪雨災害での対応行動に関するアンケート

調査主体：岡山県

調査手法：質問紙による郵送自記入・郵送返却

調査地域：高梁川水系の住家被害の大きい市町
（倉敷市、総社市、高梁市、矢掛町）

調査対象：被災世帯（約 7,000 票）

調査時期：実査 2018 年 11 月～12 月

3 調査項目

（1）個人属性（回答者を知る）

- ・年齢・性別
- ・家族人数・形態
- ・職業
- ・居住地（現在／災害発生時）
- ・居住形態（現在／災害発生時）
- ・被災経験
- ・ハザードマップ認知
- ・災害への備え
- ・防災訓練への参加

(2) 大雨に関する情報への認知・態度・行動を知る (各時点)

- ・居場所・周囲の状況
- ・災害発生可能性の想起
- ・大雨に対する対応行動とその理由
- ・大雨特別警報 (時間、情報源、意識行動変化)
- ・避難指示 (緊急) (時間、情報源、意識行動変化)

(3) 豪雨災害に対する避難行動、被害・影響等を知る

- ・避難実態
- ・被害 (人的被害、家屋被害、家財被害、経済被害)
- ・こころとからだのストレス
- ・永住希望
- ・居住地の移動
- ・復旧・復興カレンダー
- ・支援者 (精神面、物質面、情報面)